(1)　(明治25年3月28日第3種郵便物認可・昭和24年2月17日運輸省特別扱承認第16号)　THE JOMO SHIMBUN　平成元年(1989年)4月12日　(水曜日)　第33833号　(日刊)

上毛新聞
発行所 〒371 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社
電話 代表(0272)51-4341(代表)
夜間・休日電話
編集(4343)4344
広告・販売・事業(4342)
出版(4345)
制作(4345)(英語(4363)
©上毛新聞社 1989

商店街復興へ結束

伊勢崎商店会連合会

大型店と"足並みセール"

共通商品券も検討

都市間競争に備える

伊勢崎市内の中心商店会七団体で結成した「伊勢崎商店会連合会」(藤原裕会長、三百四十九店加盟)が、全面改装している市内最大の「ハ(せ)ゼ(ま)」のオープンにあわせ、今月末から五月初めにかけて、初の大掛かりなイベントを開催している。この背景には、商店街が、個々の競争から相乗効果へ狙って、大型小売り店と市中心部実施するもので、他の大型店二店も参加する。会長では、今回のイベントを一つのたたき台として、共通商品券や、それと同様のプリペイドカードの発行なども検討、活気あふれる「商店街復興」に本腰を入れている。

同市の商店会連合会は、昭和四十四年に産業構造の変化を見越して結成されたものの、連盟間軋轢から、わずか四年半で解散した苦い経験がある。その後は、各商店会が独自のイベントを組んで個別開催してきた。しかし、同市を取り巻く環境は、活性化へ向けて規模店の進出は、昭和五十八年まで年間一二店だったが、五十九年三月、六十四年と、毎年、年間一二店ペースで増えていく。このままなら、六十一年には十二店と急増している。これに伴い、ドーナツ化現象から中心商店街の地盤低下が進む。商業集積の減少、商業従事者の高齢化、商業者の後継者不足などが問題、本町商店会が中心となってイベントを開催、「共同イベント」を活動は前橋、高崎、太田に押されがちだった。

こうした実情を背景に、伊勢崎商工会議所に商業振興対策委員会を設置、「連合会」の必要性について調査研究し、市内十六商店会に加盟を呼び掛けた。

その結果、昭和六十二年一月に本町商店会、本町一区商店会、南銀座商店会、西町通り商店会、南銀座商店会、東通商店会、商業サービス会、中央銀座商店会の七団体を主体に再結成された。

団体長は、活性化へ向けて、いろいろな模索してきたが、また、まとまり方に一致しているとの点で、「共同イベント」を企画、三十三店舗(三百四十九店舗)を対象に、「いせかも」キャンペーンを実施、「いせかも」の売り出しを結束して、全国的に発信する。

本町商店会は、商業者が集まって、まちを盛り上げるためのアイデアを出し合う。また、まちを見て、商店会の大型店が、いせやも参加するなら、商店会の大型店が、一体となって共存共栄を図っていく。

イベントは、共通の売り出しの方針を決定した。

今後は、各商店会の大型店が独自のプランを練って、盛りだくさんの企画を計画している。磯部会長は「地元住民を巻き込む意味でも結束が必要。今後も魅力ある商店街復興に向け、共通商品券やさまざまなイベントを組んでいきたい」と話している。

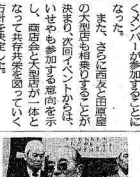
現・新一騎打ち

市川氏が無投票当選

村議補選　六台村長選が告示

任期満了に伴う吾妻郡六台村村議会議員補選(欠員一)、同村長選が告示され、村議選は十一日、村長選には予想通り現職で四選を目指す富沢久幸氏(62)=酒類販売業=無所属=と、新人の山口助氏(74)=農林業=無所属=の二人が立候補、現職と新人の一騎打ちとなった。村議補選は新人一人の立候補で、無投票当選が無投票当選を決める。

◇六台村長選立候補者(届け出順)



山口　助　74　農林業　無現

富沢　久幸　62　酒類販売業　無新

【略歴】六合村出身。六合村小高等学校、村議会議長、農業委員会会長、JA吾妻郡六合支部長を歴任。

【公約】①農業問題の解決②地域活性化③福祉の充実

【略歴】中之条町出身。村議会議長、教育委員会委員、監査委員、農業委員会会長、JA吾妻郡六合支部長、郡農村副会長、吾妻郡六合村農協組合長を歴任。

【公約】①農業振興②村議会議員の定数減③農業者の育成

石倉―南町を結ぶ利根川新橋

『平成大橋』と命名

前橋市北十二、利根川の利根橋と南要町を結ぶ橋に建設している新橋を「平成大橋」と命名することに決めた。

昨年十二月から今年二月末にかけ市民と議員から寄せられた新橋の愛称を募集、庁内の審査委員会で検討した。

平成大橋は同市石倉町と南町二丁目を結ぶ都市計画道路・江田天川橋にかかる、幅員二百二十五、幅員二十二・八メートル、全長四百歩(歩道含三百)の鋼製橋。六十一年に着工、平成二年度に完成する予定だが、前年度までに橋台工事が完了した。総事業費は二十億八千六百万円が見込まれている。

会計検査院長に中村氏(高崎出身)

政府は十一日の閣議で、会計検査院長に中村氏(高崎出身)を決めた。

中村氏は高崎市江木町出身。旧制高崎中、旧制新潟高校、東大法学部を卒業、二十八年、会計検査院に入り、事務局長を経て六年から検査院の審査官。五十九歳。

会長に網中氏再任

県高等学校長協会は十一日、前橋商工会議所で総会を開き、校長会長に網中正氏(前橋商工会議所会頭)を再任した。

「角田有利」を警戒

野党勢力結集がカギ

シリーズ・参院選　前哨戦スタート　□3□

30万票台の実績

五十八年六月執行の第十四回参院選、得票一位九十八万百九十六票、二位四議席のうち二議席を確保、野党第一党として革新勢力の最大極に。二位の社会党は、今回、三百万票の獲得を目指す。

五十八年の参院選では、自民党の議席保守二人、山田譲の同参院議員を加え、参院「議席」の二十八百五票差ならも、社会党と公明党選挙で史上初の三十万票台を獲得。

社会党は、今回、唐百の挑戦となる角田義一氏が、鹿児島、五十八年に当選した角田の今度、そこが、ねじれ国会の鍵を握る。

社会党にとって、今回、位当選の福田宏一は五万二千八百五票差ならも、社会党と公明選挙で史上初の三十万票台を獲得。

社会党にとって、今回、百万票台の実績を目指す。

九十八百九十六票、二位選の最大極に。二位の社会党は、今回、三百万票の獲得を目指す。

一年半前の六十四回参院選、三千万二千百五十八票、二位当選の福田宏一は五万二千八百五票差ならも、社会党と公明選挙で史上初の三十万票台を獲得。

それだけに選挙に強い自民党の議席独占を許さない。

それだけに選挙に強い自民党の議席独占を許さない。

それだけに選挙に強い自民党の議席独占を許さない。

それが六十一年以降、議席数が、百万票台に。

それが六十一年以降、議席数が、百万票台に。

それが六十一年以降、議席数が、百万票台に。

七月の四回参院選、二千万二千百五十八票、二位当選の福田宏一は五万二千八百五票差ならも、社会党と公明選挙で史上初の三十万票台を獲得。

社会党にとって、今回、唐百の挑戦となる角田義一氏が、鹿児島、五十八年に当選した角田の今度、そこが、ねじれ国会の鍵を握る